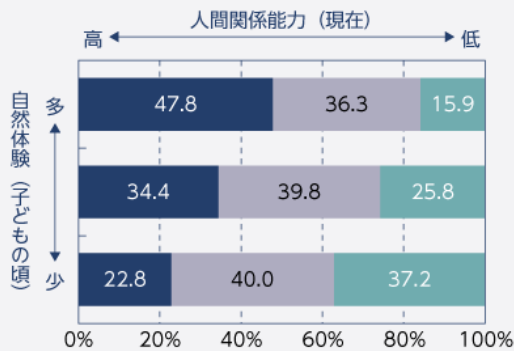


■ビオトープ・サロン 生物多様性と人間・科学・技術・経済

「自然体験」と「人間関係能力」の関係



【自然体験】

- ・海や川で貝を採ったり、魚を釣ったりしたこと
- ・海や川で泳いだこと
- ・太陽が昇るところや沈むところを見たこと
- ・夜空いっぱいに輝く星をゆっくり見たこと
- ・湧き水や川の水を飲んだこと

【人間関係能力】

- ・人前でも緊張せずに自己紹介ができる
- ・けんかをした友だちを仲直りさせることができる
- ・近所の人に挨拶ができる
- ・初めて会った人とでもすぐに話ができる
- ・友だちに相談されることがよくある

出典：独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」

今号は、平成23年版環境白書から二つの図を転載し、話題提供として紹介します。(間もなく平成24年版が発行されます。一度目を通してみましょう。) (編集局)

【自然は偉大な先生…その所以とは！？】

“自然は偉大な先生”…しばしば耳にします。しかし、あたりまえのことに聞こえますが、具体的にとなると、わかるような、わからないような？

“先生”として、人間形成の教育・学習と、科学技術の研究・開発の二つの視点からの話題にふれてみます。

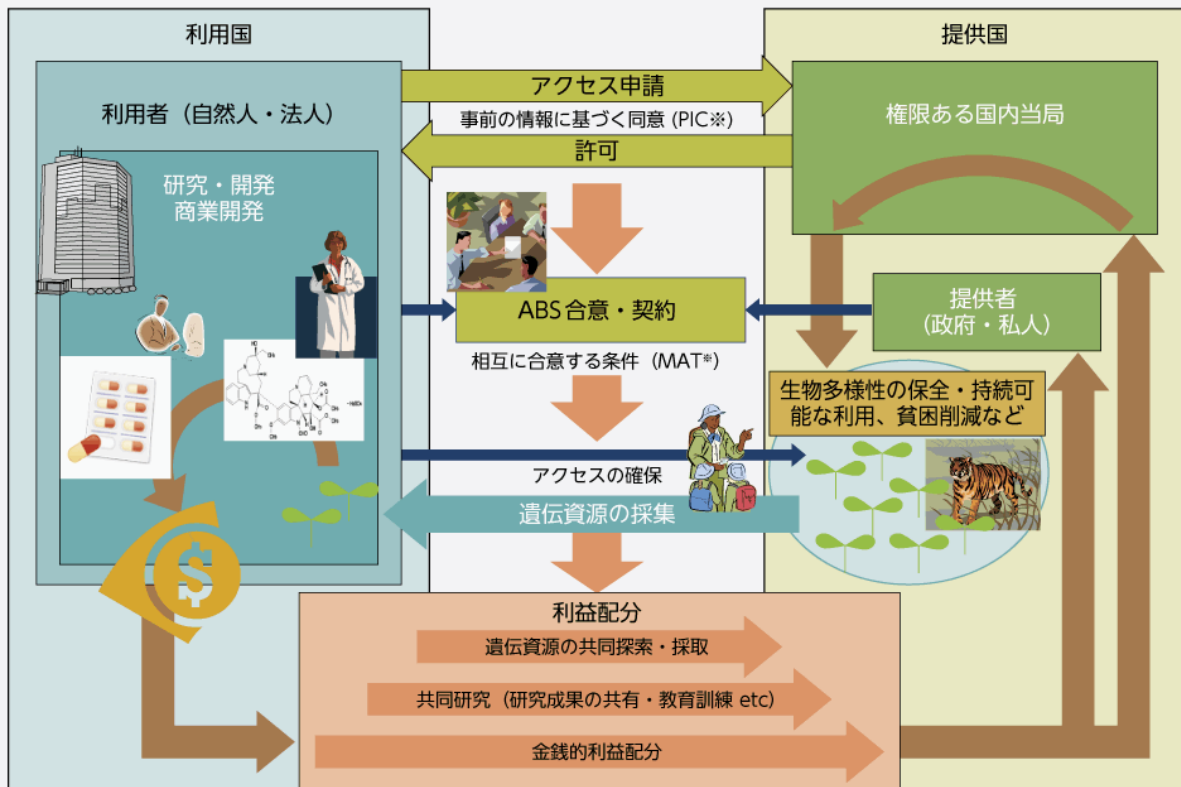
前者については左の図です。自然体験が多い子どもほど人間関係能力が高いという調査報告です。この他にも「豊かな感性を育む」「命の大切さを知る」「自己制御力が身につく」「道徳観・正義感が身につく」「探求心を育む」「将来への展望を持つ」などの研究報告があります。

後者については、生物模倣(バイオミミクリー)がその代表にあげられます。「新幹線が高速でトンネルに突入する爆音緩和はカワセミの水中突入」「ソーラーパネルは植物の光合成」「剥がせる粘着テープはヤモリの足」「マジックテープは野性のゴボウの実」など、あげればきりがなく身の回りにあふれ、現在も注目されています。

原発事故で注目の植物による環境汚染の修復(ファイト・レメディエーション)や医療研究や医薬品製造、家畜や作物の品種改良などにも野生生物が欠かせません。

今世紀の大きな課題の一つ“生物多様性保全”は、遺伝資源の保全から始まりました。そして南北問題から利用と配分が加えられ下図のように現在に至っています。

遺伝資源へのアクセスと利益配分 (ABS) の仕組みの概要



資料：環境省

※PIC: Prior Informed Consent MAT: Mutually Agreed Terms

■ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう！

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより
無断転載禁止：本紙は公益財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。 (編集局)

【施工部門1級記述問題：正答と解説は次号で紹介】

問041：

休耕田を、湿地タイプのビオトープを活かした公園として整備することになりました。施工に当たり、野生生物へのインパクトを軽減する上で、どのようなことに配慮する必要があるか、400字以内で述べなさい。

■前号040の解説

コナラ林は、間伐や下層植生の保全、カブトムシやクワガタの生息場づくり、高木は野鳥の生息場として保護、住民の活動を含む維持管理体制、モニタリングと順応的管理。タケ林は、人が歩ける程度の間伐、タケ林拡大防止策、伐採したタケの有効活用など。

※2級はどなたでも受験でき、四国の受験会場は「徳島大学工学部」です。自然環境の保全に関わる方には、是非とも取得していただきたい資格です。詳しくは、<http://www.ecosys.or.jp/eco-japan/activity/biokan/index.htm>

■ビオトープ・サロン 熱血オジサン奮闘記！～プログ・ビオトープ気延の里～

寄稿：石井町のわんぱくおじさん(ビオトープ気延の里)

【～もみまき～ 4月13日】

4月13日 曇り 今年も5年生の田植えの準備です。

新5年生(今年は4クラス)が全員で“もみまき”をしました。去年の子供たちより上手にできました。

後は天候任せ。5月15日の田植えまで約1ヶ月。どうか順調に育ちますように！



～編集局から一言～
 生活体験や自然体験が少なくなった現在、教科書の知識だけでなく、実体験は、未来を担う子どもたちにとって、とても貴重な体験となることでしょう。

■みんなの“たからもの” ナベツルが阿波市で短期滞在？



編集の都合上、時季外れになってしまいました。すみません。その後の情報によると、阿波市では1月上旬から複数回の目撃情報があり、いずれも24羽の群れだったそうで、短期滞在中だったのかも知れませんが。

ナベツルは、鹿児島県の出水市に1万羽を超える群れが集中。水田被害拡散防止のために人工ねぐらと給餌活動、これが一極集中化の要因になり、そして観光資源に。一方、かつての飛来地は飛来数が激減したそうです。

しかし、トリインフルエンザが拡大する昨今、感染症による大量死のおそれが問題化され、かつての飛来地の山口県熊毛町八代、新たな飛来地として高知県の南国市や四万十市などのへの分散化が課題となっているようです。

解決策は、出水市の給餌活動の縮小以外に無いと思いますが、周辺への分散による農業被害が懸念される理由から実現は難しいとのこと。(編集局)

【圧巻！ナベツル24羽の群が頭上を舞う／3月1日】

寄稿：KKさん

頭上で聞き覚えのある鳴き声が…まさか！？ と思いつつ見上げると目の前にナベツルの群れが。独特の鳴き声を発しつつ、低空飛行で旋回、休耕地へ羽休めに舞い降りるのかと、しばらく見守りつつ見上げていました。

ふと我に返り、たまたま持ち合わせていたビデオカメラを取りに車へ。しかし、残念ながら時既に遅く、屋根をかすめるように飛び去る一瞬しか納められませんでした。それもピンボケです。

北へ南へとジグザグしながら西の空へと…おそらく、朝鮮半島を経由してシベリアへと帰っていくのでしょう。(今思えば、近くの休耕地で羽を休め、飛び立ったところだったのかも知れませんが。)

■写真上：低空飛行の旋回後飛び去る。 ■写真下：西方へと高く遠ざかる。



■編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報のもとより、皆様の活動やお仕事、日常生活を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。 ふるってご参加ください！ 編集局

【E-mail : kanv@nifty.com URL : <http://biotopetokushima.yu-yake.com>】